

平成16年度育成試験課題

整理番号	16神-2
------	-------

育成試験の名称	血管炎診断のための抗ペルオキシレドキン抗体検出系の確立と普及	
実施機関及び 担当者	聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター 助教授 加藤智啓	
育成試験の目的・目標		
各種血管炎患者等における抗ペルオキシレドキン抗体の抗体価を、ELISA法を用いて測定し、診断用検査あるいはモニタリング検査としての有用性を確認する。 抗ペルオキシレドキン抗体の測定法を簡便かつ高感度なものに改良し、一般臨床検査レベルで日常的に扱えるキットの作成を行なう		
試験方法と内容		
試験項目	内容	
各種血管炎における抗体 価の測定	高安病・川崎病などの中大型血管炎を中心に抗ペルオキシ レドキン抗体の抗体価測定を行った。	
治療モニタリングにおけ る有用性の検討	未治療の血管炎患者約10例で抗体価の変動を測定し、治 療との抗体価との関連を検討した。	
高感度簡便 ELISA シス テムの構築	測定キットの試作品作成に向け、抗原の作成法を検討し た。	
予算額	2,000 千円	
試験結果		
<p>抗ペルオキシレドキン抗体が、高安病・川崎病などこれまで血清学的指標の無かった中大型血管炎で高頻度に検出されることがわかり、診断用検査として有用性が確認された。また、治療により、同自己抗体価が速やかに低下することがわかり、モニタリングに有用な可能性が示唆された。</p> <p>ELISA システムの構築については、GST 融合蛋白として抗原を作成することが事業化上望ましいことから、これを検討した。GST 融合蛋白として抗原は作成され、現在、測定条件の最適化を行っている。同時に、昆虫細胞での作成も進めることとし着手した。</p>		
現在の状況及び今後の展開方策		
<p>抗ペルオキシレドキン抗体が、各種血管炎の診断に有用であることが立証できた。今後抗体試薬の製造に向け、グルタチオントランスフェラーゼとの融合蛋白としてのペルオキシレドキン2抗体の反応性向上、ELISA プロトコルの標準化の確立等の検討を共同研究中の某抗体メーカーと共に進め、最終的には実用化に向けて厚生労働省の認可が得られる診断法を2年程度で確立する。</p>		